

知床のカタツムリについて

小合 信也

099-41 斜里郡斜里町本町15
北見営林支局 知床森林センター

1. はじめに

カタツムリの仲間とえば、南の方のイメージが強いのですが、知床にも意外に多くの種類が生息しています。しかしながら、小さく、目立たないところで生活しているため、山を歩きなれた人でも、気がつかないことが多いようです。

知床のカタツムリについては、湊 宏氏 (1971年) によってハコダテヤマキサゴ等6種が、鈴木章司・品川和久両氏(1982年)によってマキゾメガイ等3種が、石坂 元氏 (1985年) によってクリイロキセルガイモドキ等3種が報告されている程度で、未記録のものが多くと考えられてきました。

知床森林センターが発足して2年余、その間に知床国有林で様々な調査を行ってきました。今回知床半島で採取したカタツムリ(陸産貝類)について、まとめたので報告します。

あわせて、現在までの知床でのカタツムリの採取記録について紹介し、これらをあわせてリストを作成しました。

2. 調査方法

1988年夏から1989年秋までの間に、斜里町ルシャ地区、カムイワッカ、岩尾別、幌別、日の出及び朝日ヶ丘(斜里海岸林)の国有林において調査しました。

調査方法としては、森林調査の際に樹木の樹幹上等で採取、目視する方法及び落葉や腐植土を持ち帰り、ハンドソーティングの後ルーペ、顕微鏡で確認するという方法によりました。

結果として、比較的大型のものは前の方法により、微小なものは主に後の方法によることになりました。

同定に当たっては、東 正雄「原色日本陸産貝類図鑑」(1982)によるとともに、道立稚内水産試験場 桑原康裕氏並びに和歌山県立熊野高校 湊 宏氏にお願いしました。

3. 調査結果

今回の当センターの調査によって、15科22種を確認し、このうち、ケシガイ、クシロキバサナギガイ、アツチキバサナギガイ(仮称)、ミジンマイマイ、ナタネガイ属の1種(エゾナタネガイ?)、ヤマコウラナメクジ属の1種(ヤマコウラナメクジに似る)、オオコウラナメクジ科の1種、オオタキキビ、エゾキビ、エゾヒメベッコウ、コハクモドキ、ノナメクジ及びエゾマイマイの13種が知床の従来の記録にないものです。

これによって、知床では従来の記録と合わせて、15科23種のカタツムリが確認されたこととなります(別表)。

4. 考 察

今回の採取記録のうち、特記すべきはハンノキ、ミズナラの河畔林の落葉中から採取したアツチキバサナギガイ(仮称)[*Vertigo(Isthmia) circumlabiata* Schileyko, 1984]で、日本初記録の種です(写真-1)。桑原康裕氏(私信)によると、アツチキバサナギガイ(仮称)は、1984年にソビエトのSchileykoによって国後島で発見され、新種として報告された種です。形態は、成体



写真-1 アツチキバサナギガイ(仮称)

では殻口が丸く、外唇が肥厚し、4歯（内唇1歯、軸唇1歯、外唇に平行した2歯）を有する点が特徴です。

また、オオコウラナメクジ科の1種（*Arion silvaticus* Lohmander, 1937や*A. circumscriptus* Johnston, 1828に似る）も日本初記録の種と思われます。

アツチキバサナギガイ（仮称）をはじめとして、現在までに知床で確認されたカタツムリを見ると、全体的には釧路や千島で確認されているものと同じ種が多く、この地方の陸貝相が千島列島と深いつながりをもっていると考えられます（桑原康裕氏 私信）。

クリイロキセルガイモドキは、従前、道南西部に分布する種とされていたものであり、日本の分布の東限に当たる可能性があります（写真-2）。本種は日本海要素分布型の代表種（湊 宏氏 私信）と言われており、知床での生息確認は興味深いものがあります。クリイロキセルガイモドキの採取場所は、標高100～400mの広葉樹を主とする広過混交林であり、エゾユズリハの分布域で採取されたことが特徴です。エゾユズリハは、道東では比較的少なく、日本海側の要素と言われています。このことは、カタツムリ類と植生との関連を考察する上で興味深いものがあります。

このことから、植生についても、カタツムリに



写真-2 クリイロキセルガイモドキ



写真-3 ヤマボタル ↑

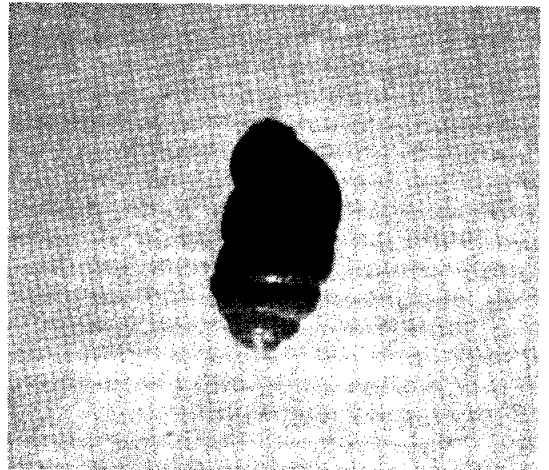


写真-4 クシロキバサナギガイ →

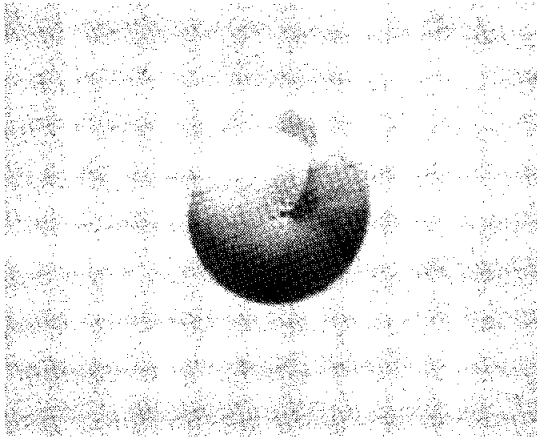


写真-5 エゾエンザ



写真-6 ホンブレキマイマイ
(カラフトマイマイ)

についても、知床半島が、北方的要素と日本海側の要素の接点になっていると言えそうです(写真-3~6)。

5. おわりに

知床半島ではまだ未知の種も多いと考えられ、新種の発見も含め更に多くの陸産貝類が確認される可能性が大了。

また、環境指標としてのカタツムリは、移動性が小さく環境条件に敏感であると考えられます。特に植生や森林等との関連について、研究の対象として興味深いものがあり、知床のカタツムリに

ついて今後更に調査を深めてゆきたいと考えています。

最後になりましたが、種の同定をはじめとする種々のご指導をいただいた道立稚内水産試験場の桑原康裕先生及び和歌山県立熊野高等学校の湊宏先生、並びにとりまとめのご指導をいただいた斜里町立知床博物館の中川 元先生に心から感謝いたします。

引用文献

- 江村重雄, 1936: 北海道地方の陸産貝類.
新潟高等学校博物同行会誌「自然研究」
5: 45-63
- 東 正雄, 1982: 原色日本陸産貝類図鑑.
333p.、保育社
- 北海道林務部, 1987: 北海道の森林植物図鑑.
(樹木編)331p.、北海道国土緑化推進委員会
- 石坂 元, 1985: 北海道陸産貝採取記.
ひたちおび41: 5-6
- 湊 宏, 1971: 知床半島の陸産貝について.
ちりぼたん6: 186-187
- “ , 1988: 日本陸産貝類総目録.
294p.、日本陸産貝類総目録刊行会
- 鈴木章司・品川和久, 1982: 北海道産非海産貝類の若干種について. 南紀生物 24:114-117

知床の陸産貝類目録

原始腹足目 ARCHAEOGASTROPODA

ヤマキサゴ科 Helicinidae

- 1 ハコダテヤマキサゴ *Hemipoma hakodadiense* (Hartmann, 1890) ①, ④

基眼目 BASOMMATOPHORA

ケシガイ科 Carychiidae

- 2 ケシガイ *Carychium pessimum* Pilsbry, 1902 ④

柄眼目 STYLOMMATOPHORA

ヤマボタルガイ科 Cionellidae

- 3 ヤマボタル *Cochlicopa lubrica* (Muller, 1774) ①, ④

サナギガイ科 Pupillidae

- 4 ハナシサナギガイ *Pupilla hebes* (Ancey, 1881) ②, ④

キバサナギガイ科 Vertiginidae

- 5 クシロキバサナギガイ *Vertigo Kushiroensis* Pilsbry&Hirase, 1905 ④

- 6 *アツクチキバサナギガイ (仮称) *Vertigo(Isthmia) circumlabiata* Schileyko, 1984 ④

ミジンマイマイ科 Valloniidae

- 7 ミジンマイマイ *Vallonia costata* (Muller, 1774) ④

- 8 エゾミジンマイマイ *Vallonia patens* (Reinhardt, 1883) ②

マキノメガイ科 Acanthinulidae

- 9 マキノメガイ *Zoogenetes harpa* (Say, 1824) ②, ④

キセルガイモドキ科 Enidae

- 10 クリイロキセルガイモドキ *Mirus andersonianus* (Moellendorff, 1885) ③, ④

ナタネガイ科 Punctidae

- 11 ナタネガイ属の一種 (エゾナタネガイ (?)) *Punctum boreale* Pilsbry&Hirase, 1905 ④

パツラマイマイ科 Discidae

- 12 パツラマイマイ *Discus pauper* (Gould, 1859) ①, ④

オオコウラナメクジ科 Arionidae

- 13 ヤマコウラナメクジ属の一種 (ヤマコウラナメクジに似る *Nipponolimax monticola* Yamaguchi&Habe, 1955(?)) ④

14 オオコウラナメクジ科の1種 (*Arion silvaticus* Lohmander, 1937や*A. circumscriptus* Johnston, 1828に似る) ④

オカモノアラガイ科 Succineidae

15 オカモノアラガイ *Succinea lauta* Gould, 1859 ①, ③, ④

ベッコウマイマイ科 Helicarionidae

16 オオタキキビ *Trochochlamys lioconus lioconus* (Pilsbry&Hirase, 1905) ④

17 エゾキビ *Parakaliella affinis* (Pilsbry&Hirase, 1905) ④

18 エゾヒメベッコウ *Nipponochlamys hokkaidonis* (Pilsbry&Hirase, 1905) ④

19 エゾエンザ *Pristiloma japonica* Pilsbry&Hirase, 1903 ①, ④

20 コハクモドキ *Retinella radiatula radiata* (Pilsbry&Hirase, 1904) ④

コウラナメクジ科 Limacidae

21 ノナメクジ *Deroceras varians* (A. Adams, 1868) ④

オナジマイマイ科 Bradybaenidae

22 ホンブレキマイマイ *Karafthelix blakeana* (Newcomb, 1865) ①, ③, ④

(*カラフトマイマイ *Bradybaena weyrichii* (Schrenck, 1867))

23 エゾマイマイ *Ezohelix gainesi* (Pilsbry, 1900) ④

説 明

1. 表示について

①は湊 宏氏 (1971年) 報告の種

②は鈴木章司氏・品川和久氏 (1982年) 報告の種

③は石坂 元氏 (1985年) 報告の種

④は本調査で確認した種

2. 和名及び学名は、主に湊 宏 (1988) 日本陸産貝類総目録によった。

なお、*は、道立稚内水産試験場 桑原康裕氏の指導によった。